

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Athletic			
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日 ～ 2025年 9月 10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日 ～ 2025年 9月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体験型プログラムの充実	運動・調理体験・自然体験など、多様な“体験活動”を取り入れています。運動を通して協調性・判断力・思考力を育むなど、ただの遊びではなく目的をもって設計されていることが特徴です。	季節や地域行事にあわせて年中行事との運動プログラムを追加し、子どもたちに生活リズムや文化的体験を与える。
2	専門性を持ったスタッフ配置	児童発達支援管理責任者が2名いること、理学療法士・保育士・看護職員など、多様な資格・経験を持つスタッフが在籍していることが挙げられます。専門性が高いため、子どもの課題にも対応できる体制があると言えます。	職員内でも支援の工夫や成功事例を共有シートやミニ研修で循環させ、支援の質を底上げする。
3	“サードプレイス”としての居心地の良さ・保護者との信頼関係の構築	“学校でも家でもない第三の居場所”として、「子どもの意見を尊重」「安心して通える環境づくり」「子どもが積極的になった」など保護者からの声にもある通り、利用者からの満足度が高いようです。	保護者との信頼をさらに深めるために、日常の様子をSNSやニュースレターで発信し、透明性を高める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団活動中心のため個別ニーズ対応の限界	集団での活動が多いため、個別の発達ニーズ・学習の遅れ・苦手科目へのきめ細かな対応が十分でない可能性があります。	アセスメントを定期的に見直し、短期目標を明確にして進捗を職員間で共有する。
2	送迎範囲・利用時間の制約	送迎範囲が「八幡東区全域・八幡西区一部・戸畑区一部」と限定されており、遠方の家庭からの利用が難しいことがある。利用時間も学校の終了以降や休業日の時間帯で設定されているため、保護者側の都合と合わないケースも出てくるかもしれません。	家庭へのアンケートや利用実績データを分析し、送迎ルートの再編や待機時間削減を検討。
3	継続的な専門性研修および人員の確保の課題	スタッフに理学療法士など専門職がいるとはいえ、専門性を保ち新しい支援方法や知見を取り入れていくためには研修の機会が十分かどうか、またスタッフの定着率・人数が増減したときの対応力などで弱みがあるかもしれません。	職員が安心して意見を出せる会議や交流の場を設け、働きやすさを高める。職員が長期的に成長できるビジョンを示し、人材流出を防ぐ。